



今年も火星の観測好機になりました。

1 火星の見かけの大きさ比較

去る12月1日は地球に今年最接近し地球との距離は約8145万km、視直径は17.2"ありました。2020年10月6日の準大接近(地球との距離約6300km、視直径22.6")と比べても視直径は約3/4しかありません。そして、今年の火星より大きく見えるのは、何と2033年7月5日なので11年後に視直径22.1"となります。

<準大接近付近の火星 2020年10月13日>



<2022年最接近中の火星 2022年12月3日>



2 皆既月食・天王星食の観測

2022年11月8日の皆既月食・天王星食は、全国的に天候に恵まれ、天文ファンたちがあちらこちらで望遠鏡や双眼鏡、カメラを向けていました。私も、あと一生見られない現象(皆既中の惑星食)なので、計画をいろいろ練って記録を残そうと、天気予報を見て観測地を選定したり、ターコイズフリンジを引き出すための露出計画を立てたり、連続写真のための撮影時刻と間隔を決めたりして準備を進めていました。

2度のロケハンを行い、撮影地は福島県松川浦に決め、あとは現地で晴れを祈るばかりでした。

ところが、いざ出発の時間になると、家族からどうしても今しかない手伝いをお願いされ、渋々手伝う羽目になりました。

現地に到着も、予定より40分遅れ、撮影計画を立て直さなくてはならない事態に。

そのようなことで、部分食の始まりに間に合わず、とにかく皆既食の前半まで拡大撮影と天王星食の途中まで撮影、残りは皆既中の星野写真を撮影、連続写真も仕掛けましたが、後で画像を見ると、バックにするはずの写真の露出不足もあり、思ったような成果が出せませんでした。

取り敢えず一部の写真をご覧下さい。

